

< 概 要 >

日 時：令和5年6月23日（金） 13:30～16:00

会 場：エスバード A棟2F大ホール（飯田市追手町2丁目641-47）

出席数39名（他、委任状により出席とみなされた者3名） 【委員総数42名】

< 報告事項 >

- ・ 地域公共交通のリデザイン（最新の国の動向・方針・制度について）
（名古屋大学加藤教授より）
- ・ 令和4年度公共交通利用実績（輸送人員）・進捗状況評価について

< 協議事項 >

- 第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告について
- 第2号議案 令和5年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
- 第3号議案 南信州地域公共交通計画 一部改訂について
- 第4号議案 令和5年度地域公共交通確保維持改善事業「生活交通確保維持改善計画」変更申請について
- 第5号議案 令和6年度地域公共交通確保維持改善事業「生活交通確保維持改善計画」について

- ・ 議事録署名人に、次の2名が選任された。
三穂まちづくり委員会 土屋 巳喜雄 氏
飯田商工会議所 越高 靖子 氏

< 役員改選 >

事務局案を提出し、次のとおり承認された。

- 会長 南信州広域連合長 佐藤 健 氏
- 副会長 南信州広域連合議会議員 福澤 克憲 氏
- 監事 長野県商工会議所連絡会 堀 政憲 氏
- 監事 地域ぐるみISO研究会事務局代表 福岡 健志 氏

< 報告事項 >

- ・ 地域公共交通のリデザイン（最新の国の動向・方針・制度について）
名古屋大学加藤教授より、説明いただいた。

令和4年度公共交通利用実績（輸送人員）・進捗状況評価について
事務局より説明。

(長野県タクシー協会下伊那支部)

タクシーを公共交通として認識していただいていることは非常にありがたい。

この3年間、コロナの影響で我々公共交通事業者は、本音を吐くと危機感どころの騒ぎではない経営体質になっております。ある日突然、地域から公共交通がなにもなくなるという事態を防ぐためにはどうしたらいいかというところで、公共交通のこの会議があると私は思っています。各市町村でというよりは広域横断的にどうするかを検討できる体制をお願いしたいところです。

もう1点、2050年を見据え、長野県はグリーン戦略を進め、いくつかの市町村ではゼロカーボン宣言を出されているかと思えます。

新しく JR 東海さんのリニア新幹線の長野県駅ができたときに、当地は環境に配慮した公共交通が当たり前になっている地域であるというところになるよう、今のうちから10年先を見据えてやっていくことが大事だと思います。現在は、信南交通さんや南信州広域タクシーが、国庫補助を活用しての導入を事業者レベルで進めていますが、各市町村の他の公共交通事業者にも働きかけをしていただき、地域の住民に対する意識付け、動機付けを進めていただくことも検討していただければと思います。

<協議事項>

●第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告について

- ・事務局より説明

⇒案のとおり承認された。

●第2号議案 令和5年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

- ・事務局より案を説明

⇒案のとおり承認された。

●第3号議案 南信州地域公共交通計画 一部改訂について

- ・事務局より案を説明

⇒案のとおり承認された。

●第4号議案 令和5年度地域公共交通確保維持改善事業「生活交通確保維持改善計画」変更申請について

- ・事務局より案を説明

⇒案のとおり承認された。

●第5号議案 令和6年度地域公共交通確保維持改善事業「生活交通確保維持改善計画」について

- ・事務局より案を説明

⇒案のとおり承認された

●その他事項

(飯田リニア推進部)

それでは、リニア駅におきます広域的な利活用に向けた検討の進め方につきましてご説明いたします。リニアの駅部につきましては、昨年末にJR東海の起工式が行われ、周辺道路につきましても国道153号をはじめとして、徐々に工事が始まってきています。

飯田市が実施いたしますリニア駅周辺整備事業につきましても、昨年12月に土木の実施設計の成果発表を行い、現在、土木の造成工事の着手に向けた準備を始めているところでございます。

また、この土木関係の実施設計に落とし込んでいくため、設計作業と並行しまして、次世代インフラ、トータルデザイン、ブランドクリエイトの3つのプロジェクトを設置し、令和元年に策定したデザインノートの内容の具現化に向けて必要となる機能など、様々な検討を進めてきております。

交通関係につきましては、地域の拠点と駅をどうつないでいくのか、観光やビジネスへの対応はどうしていくのか、MaaSや新たなモビリティなどをどのように活用していくか、などの課題に対しまして、飯田市と県が事務局となり、自治体や関係事業者の皆様にも参画いただきまして、検討会議を立ち上げていきたいと考えています。

その上で、幹線となる広域的な二次交通検討、それを受けての各地域における交通の検討を進め、地域展開を図っていく流れを想定しています。

その協議の中から必要に応じて、活用や交流などの分野ごと、場合によっては地域ごとの検討部会を設置し、地域展開を図っていくこととしたいと考えています。

並行して、駅前広場の利活用に向けた地域の魅力発信につきましても、検討会議を立ち上げていきたいと考えています。

現在、会議の立上げに向けての準備会を開催するとともに、県と詳細を詰めているところでございます。皆さまとも連携しながらこれらの検討を進めてまいりたいと考えています。

(長野県交通政策局)

現在、県全域にわたります長野県公共交通計画の策定を進めています。計画の中では県全体の取組の他に、各地域の取組状況・課題等を踏まえまして、本会のような官民一体となった会議でご検討いただいた上で、掲載を進めていきたいと思っております。その折にはまたご協力をお願いしたいと思います。スケジュールとしては、各エリアで協議いただいたものを9月頃にいったんまとめて素案とし、12月ごろの県の会議にて計画案とし、今年度の2月くらいに公表していきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

(長野県タクシー協会南信州支部)

長野県の方からのご説明にもありましたが、公共交通としてバス、タクシー、鉄道をただ移動の空間を提供するだけの道具という考えではなく、そのもの自体が他に何かを発信していく媒体になるのではないかと考えています。弊社ではリニアのラインを入れて宣伝させていただいております。また、長野県に許諾をいただいてアルクマの南信州バージョンを全車両に付けまして、24時間365日、二次交通として県内からのお客様から第一に接する場面、また地域のお客様に対してそのような宣伝媒体としてタクシーを利用させていただいております。このようなことを南信州の公共交通から発信をしていくというのも一つのプロジェクトとしては面白いのではないかと考えております。是非前向きにご検討いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(名古屋大学加藤教授)

今回の会議では、各市町村の個別の取組状況と全体の動きがよくわかる内容であった。南信州全体の動きを見ながらも、実際の各エリアの路線を考えてらっしゃるのがよく分かった。その活動について、本当に敬服した思いです、これをきちんとそれぞれの地区の魅力の向上と全体の動きとの連動を行えるよう調整するのが、この協議会の役割だと思います。リニアの駅ができるときに今のシステムをどういう風に変化させて繋げていくのか、これからの検討の基盤にもつながると思います。

(北陸信越運輸局長野支局)

加藤先生からの報告にもありましたとおり、現在国土交通省の方では官民一体となった取組などを支援する新しい制度ができることになっています。これからも地域公共交通をよろしくお願いいたします。

以上、会議の内容に相違なきことを認め、南信州地域交通問題協議会規約第19条第3項の規定により、ここに署名・押印する。

令和5年 6月23日

土屋 巳喜雄 印



越高 靖子

